

つながるスイッチ!!

久留米市社会福祉協議会



vol.11

「大城校区」の取り組み



近年は毎年のように水害が起きている大城校区。今回は、大城地区民生委員児童委員協議会の「災害時マイプラン」作成の取り組みについて、ご紹介します。

大城地区

民生委員児童委員協議会

会長 小坪 孝志さん

民生委員・児童委員

才川 桂子さん

「災害時マイプラン」作成のきっかけ

「県外の地域の話ですが、避難行動要支援者名簿に登録していた人が、豪雨の際に逃げ遅れて亡くなったという内容のビデオを見ました。その時、災害時に残り残される人をなくしたい、地域で救助の手を差し伸べたい、水害が多い大城校区も何か取り組みなくてはと強く思いました」と小坪さんは話します。

避難に支援が必要な人を取りまとめている、市の「避難行動要支援者名簿」に登録していても、具体的な避難計画はなく、その名簿をどのように活用していくか課題がたくさんありました。そこで小坪さんは、民生委員が、要支援者と一緒に避難計画を立てることは

できないだろうか…と市社協の担当コーディネーターに相談しました。

市社協からは「災害時マイプラン」という取り組みについて紹介がありました。

「災害時マイプラン」とは、災害時に『どこに避難するか』『何を準備しておくか』『頼れる近くの人は誰か』ということについて、要支援者一人ひとりの避難計画を事前に作成するものです。マイプラン作成には、「自分で作る災害時マイプラン（本人が自分の避難計画を立てる）」と「地域で作る災害時マイプラン（本人と地域の人などが一緒に避難計画を立てる）」という2つの方法がありました。

小坪さんは、「個人個人で災害時マイプランを作ってもらうことは難しい。でも、『地域で作るマイプラン』だったら出来るのではないかと感じ、取り組みたいと思いました」と話します。

令和4年8月、小坪さんは、民児協定例会で「災害時マイプラン」の作成について提案しました。それに対し才川さんは、「私の住んでいる自治会（赤司地区）では、災害時に誰が誰に連絡を入れるかという連絡網をすでに作成していたので、最初は必要ないのではないかとも思いました。しかし、『誰がどこに避難するか』『誰が支援できるか』ということについて、自治会だけでなく、民児協やまちづくり振興会とも共有しておくことが大切だと思い、この取り組みに賛成しました。最終的には、赤司地区のような防災意識が校区全体に広がったらいと思っています」と話されました。

「災害時マイプラン」作成のスタート

民生委員みんなが納得して動き出した「災害時マイプラン」。「避難行動要支援者名簿」に登録されている約70名のなかでも、災害時に声かけが必要だと民生委員が特に感じる人が48名いました。まずは、その48名の「災害時マイプラン」作成から取り掛かりました。「なかには、名簿に載っている緊急連絡先が遠くに住む親族という人もいます。それでは災害が起きた時に急ぎの対応ができません。だからこそ近所同士が支援が必要です。困った時に頼れる人が近くにいるという安心感のためにもマイプラン作成は大事でした」



民児協定例会の様子

災害時マイプラン			
校 区	自治会	施設書作成日	令和 年 月 日
作成回	回	再プラン (回目)	作成担当者
おのり氏名	男・女	生年月日	昭・平 年 月 日
住 所		連絡先	
■ 入っているところから災害			
大雨が降った場合、自宅周辺で予測される被害	大雨被害 西米沢患部の延滞 土砂災害被害	48時間雨量52.1mmの場合、浸水 有・無 土砂災害警戒区域ではない・土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域	m～ m
自分たちで災害に備えておくこと			
いざというときに必要になる支援			
避難場所①	所在地		
避難場所②	所在地		
出たときに頼れる近所の人	ふりが	関係性	電 話
	氏 名	お手伝い できること	
	住 所		
	ふりが	関係性	電 話
	氏 名	お手伝い できること	
	住 所		
ふりが	関係性	電 話	
氏 名	お手伝い できること		
住 所			
■ 災害時に必要な備品書作成について			
○私は、今住んでいる地域にどんな災害が発生するのかわかり、上記に必要な備品の準備を行ないます。			
○また、いざという時には上記のような支援が必要となるため、支援が得られるように日常から何かにいる人 の助けを借りて準備を行います。			
○災害時マイプランに記載した自分に関する情報を関係機関・者と共有することに同意します。			
○災害時マイプランシステムシートを関係機関・者と共有することに同意します。			
令和 年 月 日			
本人署名		捺印	
代理人署名		捺印	

と、小坪さんは「災害時マイプラン」の必要性を話します。対象となる48名一人ひとりの自宅を訪ねて、本人と民生委員が一緒に「災害時マイプラン」を作成していきました。「避難時の持ち物を準備している人が少なかつたですね。薬と水は準備しておいた方がいいよ!」と言ってまわりました。一人ひとりまわったことで、たくさん気づきがありました。「民生委員との絆が深まり、安心できた」と言ってくれた人もいます」と才川さん。

「災害時マイプラン」は1回作って終わりではありません。年に1回はその人のところを訪ねて再確認し、プランを更新したいと思っています。さらに、現在の対象者は高齢者がほとんどですが、今後は、障害のある人や小さな子どもがいる世帯などにも広がっていきたいと考えています。また、プラン

活動をして感じたこと
これからのこと

● 小坪さん

「災害時マイプラン」は1回作って終わりではありません。年に1回はその人のところを訪ねて再確認し、プランを更新したいと思っています。さらに、現在の対象者は高齢者がほとんどですが、今後は、障害のある人や小さな子どもがいる世帯などにも広がっていきたいと考えています。また、プラン

災害時マイプラン様式

「災害時マイプラン」を作成することで、支援する側もされる側も、災害時にどうするか具体的な考えるきっかけになってよかったです。しかし、プランを作ったあと自治会に共有しても、自治会のメンバーは毎年変わるもので、どのように引継いでいくかということが今後の課題です。また、自治会だけでは対応しきれない場合や、聴覚障害がある人など声かけだけでは情報が届きにくい場合もあり

● 才川さん

は自治会、まちづくり振興会、校区社協、消防団などと共有していきたいです。最終的な目標は、マイプランを作ったことをきっかけに、ご近所付き合いが深くなり、昔のような地域になっていくことですね。



小坪 孝志さん

才川 桂子さん

小坪さんは釣りが大好きで、ほぼ毎日出かけているそう。今はあゆなど川魚がよく釣れて、「それを甘露煮にすると美味しいんだよ」と笑顔で話します。パワフルで行動力がある才川さんは、傾聴ボランティアや料理教室の講師など様々な活動をされています。特に料理は大好きで、おかずをたくさん作ってご近所さんに配るのが楽しみだそうです。

取材を終えて

災害が多い大城校区では、年に1回図上訓練を行っています。この訓練には、消防団も参加。避難行動要支援者がどこに住んでいるか皆で把握し、災害が起きた時のコミュニケーションを行っています。新たに校区で「災害時マイプラン」作成に取り組むことで、より一層、地域が一丸となって災害を乗り越えようとしている強い意気込みを感じました。

ます。今後は、そういった様々なケースにも対応できるように、災害の危険があるときに、校区から情報メールが届くような仕組み作りにつながっていくと思います。

● 地区民児協で「災害時マイプラン」を作成。

● プラン作成をきっかけに、**支える側・支えられる側ともに防災意識の向上につながった。**
また、**要支援者と民生委員の絆が強まった。**

● 今後は、自治会やまちづくり振興会との連携も視野に入れて活動していく。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34

TEL: 0942-34-3035

FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net

HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会

検索

つながるスイッチ!!は
HPでも
webマガジンでも
掲載中

webサイト

[note一つくる、つながる、とどける。]で
「つながるスイッチ!!」を検索してください!